

「患者第一に考える大切さも」
友好都市からの医師研修員

高山市の友好都市・中国麗江市から「協力交流研修員」として高山市が招き、高山赤十字病院（棚橋忍院長）で研修を受けていた消化器内科医の李国栄さんが二十九日に約七か月の研修を終え、その成果を報告した。

この研修員事業は両市の交流の一環。平成十六年度から実施しているが、医師を招くのは今回が初めて。
李さんは同病院の消化



器内科で内視鏡や放射線を使った検査、治療の技術を学ぶとともに、患者との接し方やプライバシーの配慮といった医療環境なども指導を受けたといい「この研修を通して知識や技術はもとより、患者のことを第一に考えることの大切さを学びました」と話して

いた。
李さんは今後、市海外戦略課に配属された後、三月一日に離高。帰国後は派遣元の麗江人民医院・消化器内科へ戻るといふ。
【左上写真】棚橋院長（右）から修了証書を手渡される李さん（左）。